

- 問1 千葉港の貿易の特徴について、2021年の統計データ（総輸入額は約3兆4133億円）に基づいた背景を説明したものとして、正しい記述はどれですか。（2024年 千葉県公立入試 類似）
- 輸出額の上位2品目である石油製品と鉄鋼を合わせても、輸出全体の1割に満たない状況である。
 - 千葉港の総輸入額の大部分は、成田国際空港における貿易額が合算されたものである。
 - 石油や鉄鋼の輸出入が盛んであるのは、千葉港が日本最大のコンテナターミナルを有しているからである。
 - 輸入額の5割以上を占める石油は、主に京葉工業地域の製油所などで消費・加工されている。
- 問2 江の島の地形を南側から観察した際の特徴について述べた文として、地形学的観点から最も適切なものはどれですか。なお、島の標高は約60mであり、山頂付近には展望灯台が位置しています。（2020年 東京都公立入試 類似）
- 強い波の侵食によって形成された海食崖と、その足元に広がる平坦な海食台が見られる。
 - 河川の運搬作用によって形成されたV字谷と、その出口に広がる扇状地が見られる。
 - 氷河の侵食によって形成された複雑な入り江であるリアス海岸が見られる。
 - 火山の噴火によって形成されたカルデラと、その周囲に広がる広大なシラス台地が見られる。
- 問3 日本の外国人労働者に関する統計において、中国、ベトナム、フィリピンに次いで4番目に多い約10万人の労働者数を記録し、特に群馬県や愛知県などの工業が盛んな地域に多く居住している人々がいます。自治体の窓口においてポルトガル語での支援体制が整えられていることが多いこの人々は、どこの国にルーツを持っていますか。（2018年 鳥取県公立入試 類似）
- ブラジル
 - インドネシア
 - ネパール
 - ペルー
- 問4 東京都とその周辺の埼玉県、千葉県、神奈川県における人口動態について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。なお、統計上、東京都は昼間人口が夜間人口を約270万人上回っており、近隣三県はいずれも夜間人口が昼間人口を上回っています。（2026年 新潟県公立入試 類似）
- 東京都では夜間の観光客が非常に多いため、統計上の夜間人口が昼間人口よりも少なく算出されている。
 - 周辺三県に住む多くの人々が、通勤や通学のために東京都へ移動しているため、東京都の昼間人口が多くなっている。
 - 周辺三県は、東京都に比べて出生率が非常に高いため、居住者を表す夜間人口が昼間人口を上回っている。
 - 東京都に住む多くの人々が、工場や学校が集まる周辺三県へ日中に移動しているため、周辺三県の夜間人口が多くなっている。
- 問5 日本の主な工業地帯・地域の特徴を説明した次の文のうち、京浜工業地帯について述べたものとして正しいものはどれですか。（2017年 山口県公立入試 類似）
- かつては官営八幡製鉄所を中心に鉄鋼業で栄えたが、近年ではIC（集積回路）の生産が盛んになっている
 - 中京工業地帯に次ぐ全国第2位の出荷額を誇り、かつては繊維工業が盛んであったが現在は化学や鉄鋼が中心である
 - 広大な敷地を活かした自動車工業の集積が著しく、日本最大の工業出荷額を維持し続けている
 - 鉄鋼、化学、機械などの重化学工業がバランスよく発達し、出版・印刷や情報サービス業の割合が高い
- 問6 東京都渋谷区の統計によると、夜間にその区域に住んでいる居住人口は約22.4万人ですが、昼間の時間帯には周辺地域からの通勤・通学者が流入し、人口が約53.9万人にまで増加します。このような都市中心部で見られる人口の特徴について、正しく説明しているものはどれですか。（2021年 群馬県公立入試 類似）
- 都心での生活コストが高いため、昼間人口よりも夜間人口のほうが多い状態になっている。
 - 周辺地域からの通勤・通学者の流入が多いため、昼間人口が夜間人口を大きく上回っている。
 - 郊外へのオフィス移転が進んだ結果、通勤・通学者が減少し、昼間人口が減少傾向にある。
 - 交通網の発達により、昼間人口と夜間人口の差がほとんどなくなっている。
- 問7 関東平野の台地を広く覆っている、富士山や箱根山などの火山から噴出した火山灰が堆積してできた赤土の層を何と呼びますか。（2024年 神奈川県公立入試 類似）
- カルデラ
 - 関東ローム
 - フォッサマグナ
 - シラス
- 問8 1970年代初頭から2019年にかけての関東地方における工業出荷額の統計的な変化について、正しく述べているものはどれですか。（2022年 東京都公立入試 類似）
- 産業構造の変化により繊維工業の出荷額が急増し、2019年には地域全体の出荷額の約2割強を占めるようになった
 - 総出荷額は横ばいであるが、航空機産業の出荷額が約6.7兆円に達し、輸送用機械に代わる基幹産業となった
 - 輸送用機械の出荷額は1971年時点がピークであり、2019年にかけて出荷額・割合ともに減少が続いている
 - 総出荷額が約3.8兆円から約30.5兆円へと大幅に増大し、中でも輸送用機械の占める割合が全体の2割を超えるまで上昇した
- 問9 群馬県太田市などの北関東の都市を中心に見られる、高速道路のネットワークを活用した工業の立地について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 奈良県公立入試 類似）
- 製品の鮮度を保つために、消費地である大都市の中に小規模な工場が点在し、地下鉄を利用して製品を運んでいる。
 - 製品の輸送や部品の調達をトラックで行うのに適した、高速道路のインターチェンジ周辺に工場が集まっている。
 - 原料を海外からの輸入に頼るため、大型船が接岸できる埋立地や臨海部に広大な工場用地を確保している。
 - 電力の確保を最優先とするため、大規模な水力発電所が建設されている山間部の急流沿いに工場が密集している。
- 問10 関東地方の工業は、かつては繊維や航空機産業が中心でしたが、現在は電気機械や輸送用機械を中心とした構造に変化しています。このような工業の発展に伴い、工場が海岸部だけでなく内陸部へと進出した要因として、最も適切な背景はどれですか。（2022年 東京都公立入試 類似）
- 海外から輸入する鉄鉱石や石油などの原材料を、内陸部にある大規模な港湾で受け入れる体制が整ったため
 - 地球温暖化による海面上昇の影響を避けるため、政府がすべての工場を内陸部に移転させる政策をとったため
 - 内陸部の方が海岸部よりも地価が高く、ブランド力の高い製品を製造するのに適していたため
 - 東名高速道路や中央自動車道などの高速道路網が整備され、製品や部品の陸上輸送が容易になったため
- 問11 1880年の統計において、上野国（現在の群馬県）が全国の生産高の約22パーセントを占めて第1位となり、次いで信濃国（長野県）、武蔵国（埼玉県・東京府）が上位となっていた近代日本の主要な輸出製品は何ですか。また、その製品を海外へ送るために鉄道で運んだ先の港の名前として正しい組み合わせを選びなさい。（2025年 群馬県公立入試 類似）
- 綿織物 — 大阪港
 - 生糸 — 横浜港
 - 綿織物 — 横浜港
 - 生糸 — 神戸港